

仲間づくり 各平和の会で話し合い進む!



推進委員を2重・3重の輪でつつんで仲間づくりを進めよう!

内原・友部平和の会事務局長 川井 光

2月19日、6名が集まり仲間づくりと夏の戦争展を柱に事務局会議を開きました。県平和委員会が提起された「推進委員」による仲間づくりについて報告します。まず、1人・3名の仲間を増やす推進委員、複数で3名増やすグループ推進委員の取り組みの方針については、硬直して考えないで、自分たちの運動・組織的状况に合わせて推進することを前提に次のような方向で実施することにしました。

(1) 推進委員については、内原地域では会長の飯村さんに、友部地域では事務局長の川井がなり牽引車の役割りをにやう。

(2) 県平和委員会の方針でも確認されているように、(1人で3人の仲間を増やすことはよっぽど力量がないとなり手がいませんので) 推進委員に仲間づくりを負わすのでなく、推進委員を中心に事務局員が協力し、さらに会員の方々が加わるような運動にしていく。

推進委員を柱に事務局メンバーが協力する体制を作り、さらに会員のみなさんが応援する、2重・3重の推進体制でみんなが

力を分かち合って成功させようということです。そして、この事はこれまでの地域での運動を踏まれば出来ないことはない、という一致した意見でした。

(3) 具体的には、第1弾として事務局が中心になり全会員に今回の仲間づくりの趣旨を理解してもらうために、自分たちが最近作った規約・入会申し込み書をもって会員さんを訪問して、仲間づくりに協力してもらう。

第2弾としては各種の「つどい」に参加してくれた民主運動団体の方々などに手紙を送ったり、訪ねて会員になってもらう。

第3弾としてこのような取り組みの中から新たな対象者をみんなを出し合っていく。そうすれば推進委員2名分の6名の仲間づくりは「できるんじゃないだろうか」という、自信と展望が見えてきたような気持ちにみんながなりました。

(4) このような地道な仲間づくりはこれまでやってこなかった。次回の3月15日の事務局会議までに、みんなで話し合える資料を事務局員を中心に作成してくる。そして、具体的な行動日程などを決める。

まず、役員が先頭に立とう!

石岡平和の会会長 植田 金雄

石岡平和の会では第3回県平和委員会の仲間づくりの方針を2月8日、8名で事務局会議を開催(欠席者1名)し仲間づくりについて話し合いました。

会議ではまず、事務局員全員が推進委員になろうという事が決まり、全役員に申込書を2枚づつ配りました。ただ、1人3名の仲間づくりは無理なので少なくとも事務局メンバーが1名以上やろう。その意気込みがあれば多くの会員が立ち上がってくれる。まず、役員が先頭に立とうと決意を固めました。要はこれからの具体的な行動にかかっています。

また、3月5日の活動交流集会には、一人でも多くの会員が参加することを呼び掛けました。

「憲法フェスティバル」を成功させる企画

【講演と映画の夕】

《講演》千坂 純氏(日本平和委員会事務局長)
「沖縄の基地問題は今!」

劇映画 沖縄 第一部(1時間15分)
「一坪たいともわたすまい」

と き : 3月12日(土)

時間 19:00~講演

19:30~「沖縄」上映(20:50閉会)

ところ : 県民文化センター小ホール

参加料金 : ¥1,000

主 催 : 2011 憲法フェスティバル実行委員会

百里初午まつりに寄せて

大竹 喜代子 (阿見平和の会)



初参加 百里の集い 知と輪と信
あま酒 とん汁 おでんと焚火
雪の舞う 百里の集い 明々(あかあか)と
平和を守る 茨城の意気
たぎるもの 「平和公園」の歴史知り
共に歩もう 決意の集い
雪と風 寒さの中に 燃えるもの
平和の会の 熱き連帯
初午の 雪の百里に 集結す
五十七年 持続のたたかい



歓迎! 新入会員のみなさんです。
宜しくお願ひします。

前島 延行 さん (石岡市)
俵木 達男 さん (鹿嶋市)
長沼 久雄 さん (阿見町)
湯原 正行 さん (阿見町)
野口 五十三 さん (阿見町)

各平和の会 (平和委員会) のみなさん一人ひとりの力で、
月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

平和新聞

2011年2月25日号(金曜日)

1949号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 587

2011.2/5

発行: 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

訃音

下館平和委員会 杉山 成さんを偲んで

1月24日、杉山成さんの逝去はあまりにも突然の出来事でした。一週間前の役員会では、新年のあいさつをし、いつものポーズで机の上に手を置き、笑顔で今年の抱負を楽しそうに語って和ませてくれました。会計を担当してくれていたので会費と引き替えに領収証を発行、細かい事に気が付きお金の管理では特に安心出来る人でした。

そんな成さんだったから、自分の体調管理には万全であると思っていたのに……。会議では初午まつりの取り組みと、3月に北茨城へ風船爆弾の話聞きに行く取り組みを話し合い、次回(2月7日)の役員会を決めて別れたのに……。突然の訃報にただ驚くばかりでした。

杉山さんとの出会いは、私が職員組合の役員をしていた時に会議で初めて知り合いました。彼は中途採用だったのと出先の職場であったので、会う機会が少なかったのですが、物腰の柔らかさと語り口の優しさ、正義感が強い人だったので私が委員長の時には副委員長を引き受けてくれました。その温厚で真面目な人柄は、出先の現業職場での相談にはなくてはならない人で、懇談する組合員の人達も安心して本音を話してくれました。

下館平和委員会の結成についても、「平和の大切さ」を訴えられその中心となってやってこられました。一人住まいででしたので、会長と平和委員会の関係書類についてどのように話そうか相談していましたが、遺族の方から渡された書類はきちんとバッグに収められ整理されていました。特に財政面では細かく管理され充分すぎる程でした。

定年までにあと一年、これから大いに奮闘される大事な人を無くしたのは大きな痛手ですが、彼の遺志を継いでいきたいと思えます。

ご冥福をお祈りいたします。

下館平和委員会 小林 清



濟州島は 第二の沖縄

吉川 博子
(鹿行平和委員会)



皆さんは「チャングムの誓い」という韓国ドラマをごらんになったことがありますか。

あのドラマの最終回でチャングムが洞穴の中で帝王切開の手術をする場面がありますが、その撮影場所となった洞穴というのが、実は旧日本軍が戦争中に作った人間魚雷「回天」の基地だったということをご存知でしょうか。

きりたった海岸の岸壁をくり抜きそこに回天を格納したのですが、一つの洞穴はトラックが一台収納できるほどの広さです。連合軍がこの島に上陸するという時に、ここから回天が出撃し、それを阻止することになっていたのです。その洞穴が一定間隔をおいて7、8個並んでおり(全部で20個ぐらいあるらしい)、洞穴のすぐ近くまで波が打ち寄せる遠浅の海岸には回天の滑走路(?)とおぼしきコンクリートの残骸も残っていました。結局この洞穴は実際には使われることなく、風光明媚な海岸に異様な姿をさらしています。濟州島の最南端の、温暖な気候と美しい景色で今はロケ地にもなり、濟州島の代表的な観光地になっています。

これは濟州島の平和博物館で聞いた話ですが、どうも日本軍は米軍が沖縄の次には濟州島に上陸するのではないかと予想したというのです。当時、人口20万だった濟州島に7万人の元関東軍だった日本兵がやってきました。そして島に住む人々は前述の回天の基地、飛行場、防空壕等をつくるために徴兵、徴用、強制労役など史上最悪の圧迫に耐えなければならなかったといえます。濟州島にはそのとき、防空壕が130カ所も掘られました。その中の一つが現在、私たちが見学できる唯一のカマオルムです。ここは第58軍司令部が連合軍に抗して最後の一戦を試みるべく構築した日本軍地下要塞で、最大規模だったといえます。全長2キロ、縦横に通路が巡らされ、内部には会議室、医務室、食料庫、寝室、等々あらゆる設備がありました。背中

『代表理事・常任理事はこんな人』

第15回目は、常任理事・前田 清さんです。
(下館平和委員会)



私は、農家の三男として昭和22年生まれの63歳です。民間会社に定年まで勤めていました。その間、労働組合(全労連)を結成し、労働条件の向上・平和運動・政党活動・地方ローカル線を守る闘い・ひまわり号・9条を守る会などに参加してきました。

私が平和運動に関わるようになったのは、組合活動の一環として平和の大切さを組合員に知らせる為に、百里基地の見学、初午まつり、原水爆禁止世界大会(広島・長崎)平和行進、3.1ピクニデーなどに参加した事が大きく影響しています。

下館平和委員会では、毎月定例会議を行い、一泊旅行・自衛隊基地見学などに行きました。今年は3月に北茨城の風船爆弾をアメリカ本土に飛ばした跡地を見学に行く予定です。

今後とも世界平和のために頑張りたいと思いますので、よろしくお祈りいたします。

をむち打たれながら洞穴掘りをさせられる人の姿も人形で展示されており、この人形に象徴された濟州の多くの人々の怒りや悲しみを思わないではいられませんでした。

平和博物館はそのカマオルムの敷地内にたてられた施設で、当時の様子を映像や展示でも見ることができます。実はこの施設は個人のもので、館長のイさんは私財を投じてこのオルム(火山の噴火でできた小山)を買い、この平和博物館を建て、平和教育に寄与しておられます。前述の人形のモデルは館長さんのお父さんで、お父さんの話を聞くうちにこの地下要塞を残さなければという思いになり、これを創設したといえます。館長さんは日本人の私たちの来訪をとりわけ喜んでくださって、世界の平和のためにがんばろうと肩をたたいてくださいました。

濟州は美しい島ですが、悲しい歴史をいっぱい背負っている島であり、濟州に行くたびに、私はそこに生きる人々の存在を強く意識させられ、何かしなければならぬと気づかせてくれるのです。